

災害時における要配慮者支援の取り組みについて

近年、国内外において大規模な自然災害が相次いで発生しており、本市でもいつ大規模災害が起こるか分からない状況です。過去に発生した災害においても、福祉避難所の不足が課題となっています。このようなことから、災害に備え平時から連携を図るため、新たに福祉施設等と福祉避難所の協定を締結しましたので、災害時における要配慮者支援の取り組みの拡充とあわせて報告します。

1 福祉避難所の協定締結について

福祉避難所は災害対策基本法により規定された避難所であり、介護保険施設や医療機関に入所・入院するに至らないものの、一般の避難所（福祉避難室含む）では避難生活が困難な要配慮者を受入れ、適切な支援を行うため、必要に応じて設置するものです。

（１）令和 6 年度末時点の設置数

24 施設／585 人 ※別紙 1 参照

- ・ 市の施設 3 か所（総合福祉センター、ふれあいプラザあかし西、明石養護学校）
- ・ 国の施設 1 か所（神戸視力障害センター）
- ・ 民間施設 20 か所 12 法人（身体障害、知的障害、介護施設、病院）

（２）新たな協定締結施設 （令和 7 年 9 月 1 日現在）

	施設名	所在地	受入対象者	想定収容人数
1	特別養護老人ホームペーパームーン	二見町西二見	要介護・要支援該当者	20 人
2	特別養護老人ホームうおずみ	魚住町金ヶ崎	〃	10 人
3	特別養護老人ホーム友愛園	大久保町大窪	〃	15 人
4	特別養護老人ホーム彩葉	大久保町大窪	〃	8 人
5	明石二見特別養護老人ホームラガール	二見町西二見	〃	12 人
6	特別養護老人ホームプライム江井ヶ島	大久保町江井島	〃	8 人
7	老人保健施設あさぎりむつみ荘	朝霧台	〃	7 人
8	特別養護老人ホームスプリングテラス明舞	松が丘	〃	8 人
9	特別養護老人ホーム明石愛老園	魚住町清水	〃	4 人
10	神戸大学附属特別支援学校	大久保町大窪	在校中の児童・生徒	18 人
11	明石こころのホスピタル	藤江	要配慮者全般	10 人
12	グループホーム咲楽	魚住町清水	知的障害者	9 人

合計 129 人

※すでに協定締結済の 24 施設に加え、合計 36 施設（714 人）になります。

2 福祉避難所への直接避難について

福祉避難所の位置づけは、災害時において、一般の避難所へ避難した要配慮者のうち、そのまま一般の避難所で生活することが困難な方が、安心・安全な避難生活ができるよう、必要に応じて開設する二次的な避難所です。原則として、福祉避難所に直接避難することはできません。

しかしながら、心身の状態から、一時的にも一般の避難所へ避難することが困難な方がいることから、一部の福祉避難所で、直接避難できる仕組みを整えることにしました。

(1) 受け入れ可能な福祉避難所

明石こころのホスピタル（藤江）

(2) 受け入れ対象者

直接避難が可能な福祉避難所が設置されている地区にお住まいの方で、個別避難計画等により市が事前に特定した避難行動要支援者

3 大久保北部地区福祉避難所連絡会議について

受入対象者がそれぞれ異なる5つの施設が集まっている大久保北部地域において、災害時の協力体制の強化を目的として、各施設の担当者による連絡会議を行っています。各施設が持つ資源の共有や助け合いの仕組み等について検討してまいります。

【対象施設】

博由園（身体障害）、大地の家（知的障害）、木の根学園（知的障害）、明石養護学校（肢体不自由）、神戸大学附属特別支援学校（知的障害）

4 ひなんサポーター研修について〔令和7年度 10月5日開催予定〕

令和5年度からこれまでに計3回開催し、延べ270名の方に受講していただきました。

研修は障害者体験などの演習を盛り込み、中学生以上を対象として幅広い層に参加を呼び掛けているところです。研修の受講により多くの方にひなんサポーターになっていただき、地域共助による要配慮者の更なる支援体制づくりに取り組みます。

(1) ひなんサポーターの今後の活動について

ひなんサポーター研修の受講者に対し、昨年度、市の防災訓練をお知らせしたところ、多くの方にご参加いただきました。このように、研修受講後も「ひなんサポーター」としての役割を積極的に求めている方が多くおられます。

個別避難計画の作成において、対象者の近隣にお住まいの「ひなんサポーター」にお声がけし、計画のサポーターとしてマッチングを行ったケースもあります。こういった取組を継続しながら、今後は市の防災訓練だけでなく地域の防災イベントや訓練を通じて、更にひなんサポーターの活躍の場を広げてまいります。

ひなんサポーターとは？

災害が発生し自分・家族の安全が確保できたとき、可能な範囲で、近隣の高齢者・障害者に声をかけて一緒に避難したり、避難所でのお手伝い等に協力してくれたりする人を明石市では、「ひなんサポーター」と呼んでいます。